

# 奥会津だより



8月14日。昭和村の旧盆の朝。  
墓参りの人たちが行き交い、  
村はいつとぎのにぎわいを取り戻す。  
先祖の墓の傍らで佇むあどけない野仏も  
花で荘厳された。

写真：菅家博昭

# 昔の米作り

三島町立三島小学校  
五年 細堀 玄



ぼくのおじいちゃんは昭和十六年生まれで、この三島町宮下で生まれ育ちました。おじいちゃんは、この古い昔の米作りの写真の説明をしてくれました。

「これはおれが三十代の時にとった写真だ。見て分かるようにこれは昔の米作りの様子だ。昔は今のようには便利な機械なんてなかったから米作りはみんな人の手でやっていたんだ。昔は今より人がいたから横一列に並んで苗を植えたり、刈ったりしてたんだ。この写真に写っている白い手ぬぐいを付けているこの人達は「ユイツコ」とよばれていて、その家を代表し

て田植えに協力する人で、その家のばあちゃんやお母さんが出て協力して田植えに出てたんだ。昔は家で一つの田んぼを持つていて、ユイツコ達は、今日はおらんち手伝つてもらったから明日はとりの○○さんちを手伝つて、あさつては、となりのとなりの○○さんちの手伝いだなど、となり近所で協力してやっていたんだ。」と話してくれました。

ぼくは昔、米作りを人の手でやっていた事にびっくりした。昔は今より道具は不便だと思いが分かりました。

## 取材ノート

Q:玄君は、今日坂下町で剣道の大会だったそうだね。

清さん:稽古日に1回も休まずに行っているというのが素晴らしいと思うのですが、でも、続けてきたのに、中学校に行くくと剣道部がないから、もったいないような気がします。

Q:玄君がじいちゃんから聞いた話が本になりました。ご感想は?



祖父:細堀 清さん

(昭和16年2月生73歳)

孫:細堀 玄君

(三島小6年 平成14年9月生12歳)

清さん:さすがなく、短い時間だったのに、文章をよくまとめたな、と読ませていただきました。

Q:玄君、どうですか? 玄君:昔は「ユイツコ」という助け合いがあつて素晴らしいな、と思いました。

清さん:その当時は大型機械とかないから、隣近所での助け合いだな。

Q:横一列に並んで田植え、どのようなジョウバン(定盤)を使つていましたか?

清さん:ヒモ(縄)を引つ張つて、30センチぐらいの間隔で植えていったんだ。10人ぐらいで...コビリ(小屋)は冬、凍み餅を作るわけだ。それをうまく戻して、フライパンで揚げてきな粉つけて、こ

れが楽しみだったんだ。Q:田植え風景の写真は、だれが撮影したのですか?

玄君:カメラはオレが撮ったんだ。これは、オレが撮ったんだ。二眼レフ、ヤシカの素晴らしいカメラを持つていて、現像から何から2階の押し入れでやったんだ。隣のじいちゃんが写真のプロであつたから教えてもらつて...。

Q:田植えは、女の人だけでですか?

清さん:ほとんど女。男の田植えは、はがいがね。田植え以外のコビリや稲刈りの時も撮影して、記念に写真をみんなにくれたの。

Q:じいちゃんの話きいてどうですか?

玄君:昔は自然と深く触れ合つていて、山の中で遊んで山のもの食べていた。不便だったかもしれないけれど、面白かつただろうなと思えました。

文責:菅 敬浩

# こども聞き書き百選 『じいちゃんありがとう』より

## じいちゃんに聞いたこと

昭和村立昭和小学校  
五年 酒井 凌



ぼくは、じいちゃんに昭和四十二年八月の夏休みのころの話を聞きました。

写真を見てください。これは昔のじいちゃんが夏休みに川で水泳ぎをして魚をとった記ねん写真です。この時は、川が深かつたのでたくさん入れたけど、今は川が浅いのであまり

泳げないので、昔は、うらやましいけどプールは、なかったそうです。なのでかわいそうだと思います。このころのじいちゃんは、きつと楽しいと感じていたと思います。ぼくも、じいちゃんみたいに川に入つて大きい魚をとつてみたいと思います。

## 取材ノート

Q:凌君は今日、剣道の試合でした。隆一さんの子どもの頃は、どうでしたか?

隆一さん:我々の頃は、子ども会つて各村にあつてね、夏休みに村対抗のソフトボール大会に熱が入つてい

祖父:酒井 隆一さん

(昭和30年5月生59歳)

孫:酒井 凌君

(昭和66年 平成14年4月生13歳)

Q:孫に話をしたことが本になりました。いかがですか?

隆一さん:時代の違いを知つてほしくて、夏休みなんか川で泳げたということ。たまたま、ヤスで大きなマスをついたのでその時の記念写真なんです。

Q:魚をもっているのが隆一さん?

隆一さん:そうです。近所の子ども達と一緒にね。昭和44年に集中豪雨があつて、その後、野尻川は今のようにな川になりました。その前は川べりに柳の木があつて石があつて、いかにも魚がいそうな状態。泳ぐ場所も決

まっていたんですよ。その頃の河川の風景は、ものすごく良かったですよ。毎日のように夕方まで川で遊びました。

Q:この写真に写っている人たちはみなさんお元気ですか?

隆一さん:ええ、もちろん元気です。写真を見ながら地元に残っている人は誰もいない...、オレだけだよ。

Q:凌君、じいちゃんの子どもの頃がうらやましいですか。凌:子どもたちがたくさんいて、川で遊んだり魚を獲つたりしたのがうらやましいです。

※じいちゃんの家にいると、周囲の雑音がなくて静かに勉強が出来るからいい、と凌君。

文責:菅 敬浩



## 奥会津の食材と料理



ジャガイモ床の漬物

新ジャガが採れはじめた。小さなイモを皮つきのまま茹でて潰し、塩を加えただけの漬物床。滑らかで粘りのあるつややかな床に、キュウリ、ナス、カブなど畑に溢れんばかりの夏野菜を漬け込むと、数時間から半日で色良く味わい深い一品となる。ナスも赤カブも色褪せることなく美しいままだ。(右がジャガイモ床)

## 奥会津の生き物たち

サシバ



春、東南アジアから渡ってきて、秋に帰るタカ。ピックイーと声でなく、すぐ見つけることができる。トビより小さく、農耕地の周辺をひらひらと飛ぶ。カエルや昆虫を食べる。絶滅危惧種だが、奥会津にはふつうに棲息している。

(鳥と花の写真・文：新国 勇)

## 魔除けと衣装

### 刺し子



南会津地域には美しい藍染刺し子の文化がある。意匠や技術は嫁自慢、カカァ自慢ともなるため「自慢着」とも呼ばれる。最も使われる麻の葉や七宝の紋様には魔除けの願いが込められている。危険な作業から夫や父親を守ろうとする女性たちの祈りの形だ。

また、藍染の布は抗菌、保温、放熱効果があり、虫や蛇も寄せ付けないという。



### ヤブカンゾウ

初夏、道ばたや畦にオレンジ色の花を咲かせる。花は一日の命だが、次々とつぼみをつけるので、毎日咲き続ける。奥会津ではアマナ、ハッカケショウブといい、芽立ちをお浸しにして食べる。ほんのりとした甘みがある。

## 水場のある暮らし

写真・文 竹島 善一

流れを堰き止め、水の量を確保して用をこなす水場である。

水のあるところに人は集う。電動シニアカーの主は席を立った。今日も元氣。畑仕事を終えた男が農具を洗う。

水の流れと共に上の集落へと道は続く。村落は水の流れに沿って形成される。

(平成14年8月 三島町大谷地区)



# 方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう?

「はがいがね」 ヒント：P2. 聞き書きをご参照下さい。

- 正解者の中から抽選で2名様に、昭和村の「からむし織巾着」をプレゼントいたします。
- 応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。
  - あて先：〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979 奥会津書房 宛
  - 応募締切：2014年8月15日消印有効



※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。 ※クイズの答えは次号82号で発表いたします。

## ◎80号「としより」の答え：「年寄り」

たくさんのご応募ありがとうございました!

# 読者コーナー



## お便り紹介

- 聞き書き百選では、毎回暮らしの変遷がリアルに描かれています。暮らしは変わっても、変わらない家族の営みを感じます。(東京都 M. Iさん)
- “ラショウモンカズラ”珍しいですね。残酷な語源と花姿、もう少し詳しい話が聞きたいです。(岡山県倉敷市 N. Hさん)
- 工人まつりで手にしました。とても濃い内容に感動しました。奥会津の風習、生き物、食材、植物など、一目で分かる写真・文章、とてもすばらしいですね!(福島市 I. Aさん)
- 表紙の写真の里山の初夏。私の住むところでは、原発事故による放射能の影響で、あの年以降、春秋の山菜取りの楽しみを奪われてしまいました。(茨城県日立市 K. Sさん)
- 聞き書き百選を楽しみにしています。大家族で現在も生活している地域、とても良い子育てができる奥会津だと思います。記事を読んでいて心が温まります。(福島市 T. Sさん)

## 奥会津だより 定期購読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。  
 問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局  
 TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575  
 E-mail: webmaster@okuaizu.net

# 風っこ只見線情報!

～ JR 只見線夏の特別列車運行情報～



◇風っこ只見線夏休み号  
 8月9日(土)・10日(日)  
 ※会津若松駅～会津川口駅間  
 (1日1往復)

# 奥会津ロックフェスティバル開催!

3年目を迎える「奥会津ロックフェスティバル“奥ロック”」



今年三島町美坂高原で開催いたします。  
 日時：8月30日(土) 12:00～20:30 (予定)  
 出演者：風味堂、LUNKHEAD、音速ライン、LGMonkees、LIFriends、彼女 in the display、MinxZone、∞Z、アップアップガールズ(仮)

皆様のご来場をお待ちしております。



# 奥会津イベント情報

7月中旬～9月中旬

日時	イベント名	町村名	場所	問合せ
7月21日(月)	第3回走ってみっべな会津	館岩地域	館岩・伊南・南郷地域	たかつえ地区マウンテンバイクリゾート構築による地域興し事業推進委員会 ☎0241-78-3099
7月26日(土)	昭和温泉しらかば荘リニューアルオープン 会津高原たていわ夏まつり	昭和村	昭和温泉しらかば荘	昭和温泉しらかば荘 ☎0241-57-2585
7月27日(日)	伊南川清流まつり こども溪流まつり	伊南地域	新伊南川橋周辺 しらかば公園	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711 南会津町観光物産協会館岩観光センター ☎0241-64-5611
8月1日(金)～17日(日)	いよっかり	檜枝岐村	ミニ尾瀬公園	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
8月2日(土)～3日(日)	真夏の雪まつり 沼沢湖水まつり	金山町	沼沢湖畔	金山町観光物産協会 ☎0241-42-7211
8月3日(日)	唐倉山 山開き 大桃夢舞台	南郷地域	南会津町 唐倉山 伊南地域 伊南地域大桃地区	南会津町観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811 南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
(第1回) 8月8日(金)～9日(土) (第2回) 8月23日(土)～24日(日)	夏休みまるごと体験	南郷地域	ホテル南郷周辺	南会津町観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811
8月10日(日)	霊まつり・稚児行列・流灯花火大会	柳津町	只見川河畔	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
8月15日(金)	渡御祭	昭和村	小中津川 気多神社	昭和村観光協会 ☎0241-57-3100
8月16日(土)	河井継之助墓前祭	只見町	河井継之助記念館	只見町観光まちづくり協会 ☎0241-82-5250
8月18日(月)	鎮守神社祭礼奉納歌舞伎	檜枝岐村	檜枝岐の舞台	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
8月23日(土)	早戸温泉神社まつり	三島町	早戸温泉つるの湯	早戸温泉つるの湯企業組合 ☎0241-52-3324
8月28日(木)	道の駅「からむし織の里しょうわ」オープン	昭和村	からむし織の里	昭和村役場産業建設課 ☎0241-57-2117
8月30日(土)～8月31日(日)	第5回尾瀬檜枝岐ぶなの森ウォーク	檜枝岐村	檜枝岐村内	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
9月1日(月)	伊南川刺し網解禁	伊南地域	伊南川	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
9月6日(土)	南郷豊年まつり 第30回歌舞伎の夕べ	南郷地域	南郷グランド 檜枝岐の舞台	南郷豊年まつり実行委員会(商工会南郷支所内) ☎0241-72-2041 尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
9月6日(土)～7日(日)	奥会津金山赤カボチャ収穫祭	金山町	道の駅奥会津かねやま	道の駅奥会津かねやま ☎0241-55-3334
9月7日(日)	只見駅前通りウキウキわいわいフェスタ 南会津そばウォーク	只見町	只見町内	只見振興センター ☎0241-82-2141 南会津町観光物産協会館岩観光センター ☎0241-64-5611
9月13日(土)～14日(日)	古町のまつり 奥会津麺ズフェスティバル	伊南地域	伊南地域古町地区	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711 奥会津麺ズフェスティバル実行委員会事務局 ☎0241-54-2211
9月中旬	西山温泉まつり	柳津町	西山温泉山村公園「せいざん荘」	柳津町役場西山支所 ☎0241-43-2111



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)  
 発行日：7月15日発行(年6回発行) 事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町民センター(奥会津振興センター内) TEL.0241-48-5525  
 http://www.okuaizu.net ☎webmaster@okuaizu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。  
 この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。